

近畿都市学会会報

2023/6/19 NO.218

事務局 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学総合社会学部久研究室気付

E-mail info@kintoshi.org ホームページ <http://www.kintoshi.org/>

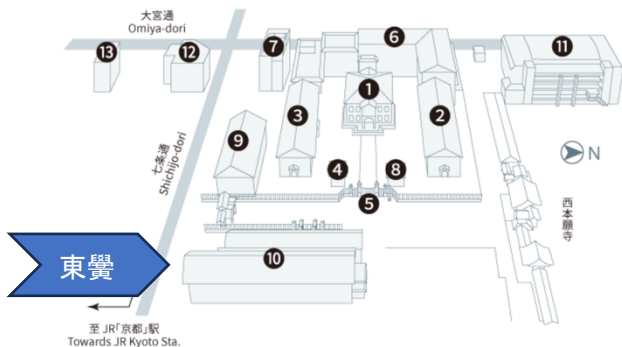
2023 年度大会のお知らせ

前号でお知らせしました 2023 年度大会の詳細が決まりました。以下のとおりです。奮ってご参加下さい。

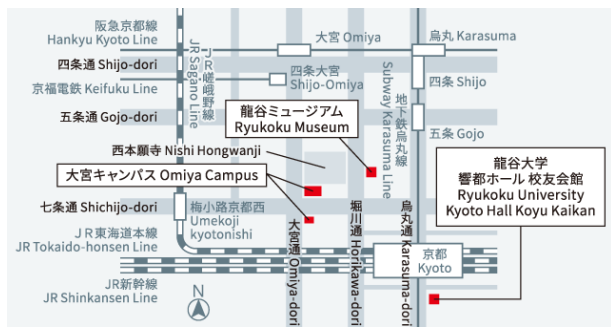
日程：7月2日（日）13時～

会場：龍谷大学大宮キャンパス

東翼（とうこう）3階302教室



- ①本館(重文) ②北翼(重文) ③南翼(重文) ④旧守衛所(重文) ⑤正門(重文)
⑥西翼 ⑦西翼別館 ⑧守衛所 ⑨清和館 ⑩東翼 ⑪図書館 ⑫清風館 ⑬白亜館



アクセスの詳細は大学 HP を参照ください。

https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_omiya.html

プログラムは次のとおりです。

13:00～13:30 評議員会

13:30～14:20 総会

14:30～17:00 研究報告

(発表15分、質疑10分)

自治体病院における新型コロナウイルス感染症対応の実情～大阪府内地方公営企業法適用病院への調査から～

朴井晃（帝京大学法学部）

条件不利地の合併市町村が直面するデジタル基盤統合上の課題の検討

井上あい子（兵庫県立大学大学院経済学研究科）

欧州5大プロサッカーリーグのクラブの集中・分散立地

松田隆典（滋賀大学名誉教授）

訪日客の回復と航空の負担問題

加藤一誠（慶應義塾大学商学部）

長崎花街（かがい）の芸の影響

中原逸郎（楓錦会）

新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症に移行しましたが、感染拡大は予断を許さない状況であることに鑑み、今回も懇親会は開催致しません。

2023 年度大会・研究報告要旨

自治体病院における新型コロナウイルス感染症対応の実情～大阪府内地方公営企業法適用病院への調査から～

朴井晃（帝京大学）

新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナという。」）については、2023 年 5 月 8 日をもって感染症法上の位置づけが 5 類に見直されるなど、収束に向けて舵を切っている。そして、コロナ対応での経験を次の新興感染症への備えに活かしていくための知見の獲得が求められ、都市に関わる多くの分野でも検証が進められていくのではないかと。

医療分野においても、コロナ対応を次の新興感染症対策に活かすため、様々な切り口から検討が進むであろう。本研究は昨年度の本学会での発表に続き、自治体病院におけるコロナ対応による運営面への影響を明らかにすることをめざしている。

昨年度の検討で、発表者が以前勤務していた八尾市立病院のコロナへの取り組み状況を分析し、コロナ対応における病院運営への影響を検証する観点として、「行政機関等からの要請」「補助金」「院内意思決定」「病床確保などによる体制整備」「マニュアルの整備」という 5 つからアプローチするのがいいのではないかと見出した。本研究では、この 5 つの観点に基づき、大阪府内地方公営企業法適用 10 病院に対し実施したアンケート調査結果から自治体病院の実情をみていきたい。

アンケート調査は、「①病院経営状況」「②患者数等の推移」「③半期ごとの最大病床等確保状況」「④院内意思決定」「⑤コロナ関係の課題・工夫・その他」という 5 項目で質問を設定し、9 病院か

ら回答を得た。

調査対象の 10 病院では、2021 年はいずれも単年度純利益（黒字）を計上し、不良債務を計上している病院が 1 病院のみとなった。これはコロナ病床確保補助金によるところが大きい。アンケート調査では補助金についての見解を求めたが、その必要性が示されるとともに、補助単価の考え方としては、入院診療単価を指標の 1 つとして考える可能性が示されている。

また、コロナ対応にあたっての院内意思決定機関について 9 病院中 8 病院が会議の場を設けたこととともに、その構成員・責任者・会議開催数などがアンケートから明らかになり、その会議において院内意思決定が有効に行われたとの見解が示されている。さらに、9 病院におけるコロナ対応として、入院対応・外来（抗体療法）対応・ワクチン対応・検査対応の多くが行われており、その対応実績を明らかにしている。そのうちの検査に関連する PCR 検査機器・抗原検査機器の病院の保有状況について確認している。8 病院（1 病院は未回答）中 1 病院のみがコロナ前に PCR 検査機器を持っていたものが、コロナ対応を進めるにあたり、8 病院（1 病院は未回答）で整備が進んでいる。8 病院で PCR 検査機器が計 17 台、抗原定量検査機器が計 10 台保有されていると回答され、次の新興感染症でも活用できる設備になるであろう。

条件不利地の合併市町村が直面するデジタル基盤統合上の課題の検討

井上あい子

（兵庫県立大学大学院経済学研究科）

本稿の目的

人口減少、少子高齢化、過疎化、地域産業の衰退等の地域課題をデジタル実装や DX を通じて解決するデジタル田園都市国家構想が推進されている。しかし、条件不利地域と呼ばれる自治体の中では、この構想に沿って DX 化を推進

することが困難であるものが存在する。その背景にはインフラとなる光ファイバが地域の隅々まで敷設されていないことがある。そのような地域でも 80 年代中頃から難視聴対策としてケーブルテレビ事業 (CATV) が整備されてきた。CATV は難視聴対策にとどまらず、コミュニティや行政に関する情報提供基盤でもある。それが、昨今の①通信と放送の融合やインターネットの普及等の情報化の進展、②地域コミュニティの構造変化、③市町村の合併(平成の大合併)等による様々な課題に直面している。

本稿は条件不利地域の CATV 事業を取り上げ、今後の事業運営のあり方やブロードバンドへの対応について検討する。なお、本稿は一般的な分析ではなく、具体的な地域を特定化し、そこでの本質的な問題を議論するものである。そのため兵庫県の新温泉町をとりあげる (同町は 2005 年に旧浜坂町と旧温泉町が合併して誕生)。

合併前後の旧町単位の CATV の課題

旧浜坂町では国に許可された CATV 事業ではなく、山間部で電波が届きにくい集落を単位とした自主共聴組合のみがあった。一方、難視聴エリアを多く持つ旧温泉町は、合併前の 2002 年から CATV の工事を開始し、2005 年から運用している。現在一つの町にありながら、旧町単位で異なる CATV が実施されている。

現在、旧温泉町については総務省ガイドラインを契機に 2022 年度に CATV の民間事業者連携 (民設民営) を決定し、事業者との契約も終えている。しかし、民間事業者連携後もテレビ放送は継続され、行政情報や地域イベント等のコミュニティ・チャンネルが旧温泉町内の配信に留まるため、旧町単位で行政情報等の情報格差は依然として存続している。

インターネットアクセスの課題

旧浜坂町では 2011 年から民間事業者により

全域でブロードバンド環境は整っているが、CATV ネットワークをブロードバンド・インフラへの移行を想定すると次の課題が生じる。特に、旧温泉町の事業は民間事業者連携に移行後も財務状況は依然として厳しく、費用をどう捻出するかである。また、インターネット・サービスにより想定される CATV 料金の追加負担を自治体による負担が難しいなかで、高齢者が多い地域の住民が受容できるかである。

不採算地域での CATV

上記のような不採算地域での状況を考えると、デジタル田園都市国家構想は不採算地域とそうした地域を含む地方部、さらには都市部との間でのデジタル格差を解消できるのか、今後の課題となろう。

欧州 5 大プロサッカーリーグのクラブの集中・分散立地

松田隆典 (滋賀大学名誉教授)

本発表はイングランド・フランス・ドイツ・イタリア・スペインという欧州プロサッカーの 5 大リーグにおけるクラブの立地の集中/分散について考察する。なお、クラブ数は 2022-23 シーズンのデータであり、シーズンによって多少変化する。

イングランドのロンドン大都市圏は人口約 900 万のグレーターロンドンを超えてイングランドの 4 分の 1 を占める約 1,400 万人が居住する。そのためプロサッカーの 1 部リーグであるプレミアリーグ 20 クラブのうち 7 クラブ (すべてグレーターロンドン) が本拠地を置き、ロンドンへの集中がみられる。そのほかミッドランドに 3 クラブ、ランカシャーのマンチェスターおよびリヴァプールに各 2 クラブ、ヨークシャーに 2 クラブが立地し、大都市圏への集中が顕著である。2 部リーグの EFL チャンピオンシップのクラブを加えるとロンドンの集中率は

下がるが、傾向は大きく変わらない。なお、ウェールズの大きな2つのクラブはイングランドのプロサッカーリーグに所属している。

ドイツのブンデスリーガのうち1部の18クラブも大都市圏に本拠地を置く傾向にある。総人口8,400万人の約15%を占めるルール・ライン大都市圏に6クラブが本拠地を置く。もっとも、ライン・ルール大都市圏をルール、デュセルドルフ、ケルン・ボンの3つの大都市圏に分割すればそれぞれクラブ数は3、1、2となる。約6,000万人のベルリン大都市圏、フランクフルト・アン・マインのあるライン・マイン大都市圏、ミュンヘン大都市圏にそれぞれ2クラブが立地する。ライプチヒ、ブレーメン、ハノーファー（企業城下町ヴォルフスブルグ）、シュツットガルトの大都市圏に各1クラブと、元来ドイツは大都市圏そのものが分散的である。ハイデルベルグ郊外のホッフェンハイムの例は珍しい。2部リーグ18クラブを加えても以上の傾向は大きく変わらない。

一方、フランスのリーグアン20クラブのうち、1つの大都市圏に2つ以上のクラブが立地しているのは北部のリール大都市圏だけで分散的である。総人口6,800万人の10%強のパリ大都市圏でさえも1クラブである。非大都市圏も含めて30万人未満の都市圏に9クラブが立地している。

イタリアのセリエAは経済的に豊かな北部に11クラブと偏在している。うちミラノ大都市圏に3クラブ（ロンバルディア州に5クラブ）、トリノ大都市圏に2クラブが立地している。中部6クラブのうち最大のローマ大都市圏とボローニャ大都市圏に2クラブずつが立地している。南部の3クラブのうちナポリ大都市圏に2クラブがあるが、シチリア島やカンブリア州には立地していない。非大都市圏に6クラブが立地しているのはフランスに似ている。

スペインのラ・リーガ20クラブのうち、総人口約4,700万人の14%を占めるマドリード

大都市圏に4クラブが立地している。バルセロナ大都市圏、セビリア大都市圏にそれぞれ2クラブが立地し、フランスやイタリアのように30万人未満の都市圏には立地していない。ドイツとは総人口は違うが、地方都市圏分散型といえるかもしれない。また、イタリアと同様に地域格差をもつスペインがラ・リーガのクラブの立地に地域差がないことへの説明に課題を残す。

訪日客の回復と航空の負担問題

加藤一誠（慶應義塾大学商学部）

コロナ禍を経て、空港のグランドハンドリング（旅客・ランプ、グラハンと略称）ならびに保安検査員の不足が顕在化した。グラハン不足は職員の離職と航空需要の回復が同時に生じたからである。両者の責任主体は航空会社であるが、保安主体を航空会社とするのは先進国では日本のみであり、空港管理者とする国が多い。アメリカは国が主体である。

グラハン会社は、全国に約400社あるといわれる。大都市圏空港では航空会社がグラハン会社を設立することが多く、地方空港では公共交通を担う電鉄・バス会社のグラハン部門が担当することもある。また、空港会社もグラハンや保安検査の社員を抱える場合もあるが、ほとんどは空港の地元雇用ということになる。

問題になるのは、コロナ禍前にインバウンド旅客の8割を担った外国航空会社（外航）である。外航は空港にグラハン要員を置かず、外航専門のグラハン会社に直接委託することもあるが、ほとんどの空港では本邦航空会社にグラハン業務を委託する。そして、本邦航空会社は地元のグラハン会社に再委託し、さらに一部を委託する三次請けのケースもある。

グラハン問題は、わが国の労働力不足や中小企業問題とも共通する。しかし、他の運輸業界と異なるのは、労働者数の20、30歳代のシェアが約70%と、若い世代が多い職場であること

である。つまり、離職者の多さや低い定着率を、航空業界のイメージによる大量採用によって補っていたといつてよい。

定着率が低いのは、低賃金、労働条件や労働環境の悪さといった業界問題ともいえる。しかし、賃金の原資となるのは航空会社からの受託料であり、航空会社にはそれがコストであるから、その低廉化に努める。ここに、拍車をかけたのが、インバウンド誘致である。自治体や空港関連団体は、地域活性化を目的としてインバウンド誘致の手段としてインセンティブを多用した。結果的に、自治体間のインセンティブ競争が生じた。誘致は国際競争にあり、空港におけるコストを抑制し、運賃や旅費の上昇を抑制するという側面も否定できない。

保安業務は、航空会社が保安・警備会社に委託する。その原資として、国管理空港では旅客1人当たり105円の保安料が航空運賃に加算されて徴収され、成田空港や中部空港では旅客保安サービス料が国際線旅客から徴収される。つまり、テロなどのセキュリティの原資となる保安料が旅客（受益者）負担で賄われている。保安料は空港整備勘定に繰り入れられ、補助（1/2）の原資となって航空会社が同額を負担する。これだけでは、コストを賄えず、別に空港整備勘定から国費が投入されている。また、航空運賃に上乗せされる旅客施設利用料（PSFC）も検査業務に充てることができる。業務は空港運営会社に移管される方向ではあるが、費用の負担方法や料金水準の問題は未解決である。報告は、アフターコロナにおける航空の費用負担に対する問題提起としたい。

長崎花街（かがい）の芸の影響

中原逸郎（楓錦会）

花街（かがい）は芸妓等芸能者による歌舞音楽と地元の花街言葉、郷土料理等で顧客をもてなす場で、外国起源説や類似した集落があり、

発表者はアジア諸国に伝搬した中国の民間文化の一つではないかと考える。

2025年には世界万国博覧会が大阪で開催され、世界各国との文化的交流が行われるが、江戸時代（1603—1868）に長く封建社会であった日本にあって、唯一外国との交流の拠点であった長崎は、オランダ・中国研究者の往来の場で、長崎の雰囲気や情緒を投影する丸山花街（以下丸山）は異国情緒と経済的豊かさで日本四大花街の一つに数えられた。本発表では近畿とも関わりのあった長崎の国際文化交流の実態に触れるため、①蘭学者中心の宴であるオランダ正月と②漢学者中心の明清楽の宴の実態に注目する。

これら宴会に丸山が関わり、音楽、博物学、窮理学（物理学）、化学等の研究者を刺激し、学問の普及を側面から促した実態を捉えてみたい。

「花街柳巷」等日本で頻出する花街詞（付録）は中国で使い始められたと発表者は考える。愛梅子著「原柳巷花語」（宝暦年間＝1751—54）に発刊されたが、嶋原を原柳巷と表している。丸山は中国の花街文化の導入口の一つであった可能性があり、注目した。

本発表では2018年5月に丸山で発表者が実施した月琴奏者（芸妓A）への聞き取り調査を交え、丸山の実態を捉える。

長崎の芸は江戸中期、大阪芸妓が移り住んで伝えたと言われ、大阪と長崎の水上交通のつながりの強さを思わせる。

Aは長崎には、①丸山芸妓でオランダ屋敷に行く芸妓は学問を、②唐人屋敷に行く芸妓は絹や宝石等財宝をもらったという言い伝えがあるという。オランダ商館長が主催した「オランダ正月」は学者に知的刺激を与え、蘭学者大槻玄沢は、丸山の芸妓を通してオランダ人の罹る病気の情報を入手した（ヘスリンク、2001:115）。

一方、中世中国音楽の流行は京都を中心に起こった。月琴の普及は東本願寺法主乗如が寺内印月池で船上演奏会を行った記録が残り、大衆（京都市民）にも明楽が流行していた（若木、

2013:220) という。幕末になると人々の関心は中国大衆文化に移り、新興市民階級の通俗的な音楽である「時調小曲」が中国南部から伝搬したという(若木、2013:222)。「時調小曲」は上海を通じて、長崎に伝わったと思われる。

オランダ屋敷同様、唐人屋敷(土庫)への通行は制限があった。貞享4年(1687)の唐人屋敷の禁制として、

- 1 断りなくして唐人構の外へ出る
- 2 傾城の外女入事
- 3 出家山伏勧進のもの並乞食入(る)ことが上げられる(本山、1919:49)。

学者たちは丸山芸妓を媒介として中国情報を収集した。青木正見によると、宝暦から文政時代(1751--1831)には中国の中国白話文学(中国の口語中心の説話文学)の流行があった。青木はこれらが花街で遊興する中国人の顧客の発する音を文字に表し、鎖国時代の日本人読者を魅了した(青木、1927:422)という。

『都市研究』の刊行・論文募集について

『都市研究』の刊行について今後は定期的に刊行をめざしてまいります。19号は特集テーマ「アフターコロナの都市・地域政策」として2023年度中に発行予定です。つきましては、査読論文の投稿をよろしく願います。執筆要項は以下のホームページをご覧ください。(近畿都市学会HPからもアクセスできます。)

<http://kintoshi.g3.xrea.com/data/shippitsu2021-07.pdf>

年会費納入のお願い

2023年度会費の納入がお済みでない方は以下の口座まで振込をお願いします。普通会员は年8,000円、学生会員等近畿都市学会のみ所属の会員は年4,000円です。

- ・ ゆうちょ銀行振替口座
00990-7-86235 近畿都市学会
- ・ ゆうちょ銀行〇九九店(ゼロキユウキユウ店)
当座 0086235 キンキトシガツカイ

事務局より

■会員情報変更について

会員情報の確認や変更は、「会員管理システム」によって会員の皆様がご自分で行えます。「会員管理システム」のURLは以下のとおりです。(近畿都市学会HPからもアクセスできます。)[会員ID]は会報の宛名ラベルに記載しています。
<https://www.mmb-sys.jp/pacmmb/USER/personal/login.aspx>

■会員異動

転籍
渡部 薫(関東都市学会へ)

■住所不明者のお問い合わせ

下記の会員の現住所が不明となっています。消息について情報をご存じの方は、メールにて学会事務局までご連絡頂ければ幸いです。

田口 芳明、鶴指 眞志、松本 英之

■お問い合わせ

入退会の申込等、お問い合わせはEメール(info@kintoshi.org)等でお願います。

近畿都市学会事務局

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1
近畿大学総合社会学部久研究室気付
E-mail: info@kintoshi.org
ホームページ <http://www.kintoshi.org/>